



明日を信じて

新潟市立潟東小学校 平成31年2月20日発行 第11号
「明日（あす）を信じて」は校歌のサブタイトルです

あやまちは やすき所に成りて 必ず仕る事に候ふ

校長 篠宮 敏明

1月下旬のインフルエンザの流行に際し、学校閉鎖、学級閉鎖等、急な対応をさせていただきましたことに、保護者の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様からご理解、ご支援、ご協力を賜りました。皆様のご厚意に心からお礼を申し上げます。

昨日2月19日は「雨水」、3月6日は「啓蟄」、そして21日は「春分」。暦は少しずつ春に近づいていますが、まだまだ寒い日が続いています。心配は尽きず、春の訪れが待ち遠しいこの頃です。

さて、樹木の剪定や電球の交換をするとき、ある言葉を思い出し、事故のないように気を付けています。確か高校生の時に習った、吉田兼好の「徒然草」の「あやまちは、やすき所に成りて、必ず仕る事に候ふ」という言葉です。平成29年2月の全校集会では、この言葉を引用しながら、「最後のまとめを大切にしよう」という話をしました。以下はその概要です。

ある日のこと、「木登りの名人」と呼ばれていたお師匠さんがお弟子さんに、とても高い木の上で仕事をさせ、木の下でその様子を見ていました。お弟子さんは仕事を済ませて、高い木の上から降りてきました。あと少しで地面というところ、飛び降りても大丈夫という高さまで降りてくると、お師匠さんは「気をつけて降りなさい！」と声を掛け、お弟子さんに注意をうながしました。木から降りたお弟子さんは、お師匠さんに質問しました。「高くて危険なところにいるときは何も注意なさらず、飛び降りても平気なところでなぜ注意をなされたのですか？」するとお師匠さんは、「高くて危険なところでは、自分自身が気をつけているので、私は何も言う必要はない。しかし、あやまち、失敗というものは、難しくないところで起こるものだから、あえて注意した。」と答えました。

これが「あやまちは、やすき所に成りて、必ず仕る事に候ふ」という言葉が出てくるお話です。同じようなことが、私たちの生活でも言えるのではないのでしょうか。予想もしない事故や失敗は、緊張が緩んで、ホッとしたときに起こることが多いものです。あと少しで今の学年が終わり、次の学年に進学・進級します。今は、木登りで言えば、あともう少しで地面に降りられるという時です。あともう少しでというところで気を緩めると、4月からがんばってきたことが台無しになってしまうかもしれません。これまでの努力を、これからも気持ちを引き締めて続け、3月というゴール、卒業式・終業式を目指していきましょう。

平成30年度もあとわずかとなりました。「一年間の教育活動の集大成」と言われる卒業式まであと30日、授業日数はあと16日となりました。まさに「木登り」の最終段階です。教職員一同、4月からの取組をふり返り、さらに気持ちを引き締め、一つ一つ歩を進め、子どもたちの確かな成長のために全力を注いでまいります。皆様におかれましても、相変わらぬご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。